

(様式第1号)

令和3年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日時	令和4年2月1日(火)～令和4年2月10日(木)
場所	書面開催
出席者	委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 高橋 孝子 委員 吉野 哲夫 委員 金本 ひとみ 委員 加藤 充子 委員 伊東 典子 委員 小西 絵理香 委員 中田 伊都子 委員 木下 新吾
事務局	社会教育部長 中西 勉 生涯学習課長 岩本 和加子 生涯学習課課長補佐 中嶋 健太 生涯学習課管理係 海士部 香苗 青少年育成課長 富田 泰起 青少年育成課主査 上田 裕之
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人

1 議題

(1) 令和3年度事業報告について

ア 校庭開放事業について

イ あしやキッズスクエアについて

(2) 令和4年度放課後プラン事業について

2 資料

【資料1】令和3年度の実施状況・参加人数の推移・遊びの種類調査・ホームページ

【資料2】キッズスクエア実施状況資料

【資料3】令和4年度放課後プラン事業について

3 意見・事務局回答

<酒井委員>

今後 コロナ感染症がどのように推移していくのかは明確になっておりませんが、来年度当初も対策は続くと思われまます。「うがい・手洗い・手の消毒」をいかに徹底していくのが求められると思ひます。家庭・学校・地域と連携して、ご尽力をさらによろしくお願ひいたします。

<柳生委員>

1. 緊急事態宣言下、また、オミクロン株拡大により、キッズスクエア開催は、その間中止を余儀なくされましたが、子ども達の健康を守り、感染拡大を防ぐ上で致し方のなかった事と思います。

ただ、一方でキッズスクエアでの子どもの過ごし方を見てきた担当者として、異年齢の子ども達が交流し合い、ゲーム機等でない遊びの場が失われたことは本当に残念な事でした。外のみでの活動も考えられたかと思いますが、冬のこの時期では難しかったと思います。

2. オンラインによるプログラムの開催は、コロナ禍において、良かったと思いますが、子どもの集まる部屋は密になっていたのでは？と思いました。参加人数に制限もあり、その点も課題かと思われます。

3. 浜風キッズスクエアでの紹介になりますが、夏休みの終わり頃の事です。参加している子どもから「お祭りをやりたい」との声がありました。どんなことが出来るのかと思いながら子ども達に任せました。場所、準備期間、材料など限られた中ではありましたが、子ども達らしい発想で楽しい活動となりました。チケットや手作りの遊びの準備、商品作り等生き生きと取り組んでいました。発案した子ども達には自信にもつながる良い体験活動となりました。

その事が「クリスマス会」を開催することにも発展しました。プログラム作りから準備、実施まで子ども達の手によるものでした。大人は、子ども達の指示で手伝ったり、相談に乗ったりはしましたが、工作用にと集めてあった箱などの材料は役に立ちました。上の学年の子たちが下級生に絵本を読んでいる姿も見ていてほほえましいものでした。

コロナ禍で種々の活動が制限されているだけに貴重な体験活動をサポートできたことは、子ども達の居場所作りにかかわる者として嬉しい事でした。

<高橋委員>

放課後子どもプラン運営は、学校の児童にとって大切な事業であるとあらためて感じています。コロナ禍で放課後の居場所が制限され、家庭でもずっと家にいる状態もあるようです。

キッズスクエアや校庭開放ができるだけ行えるような環境づくりがあればと思います。

地域と学校が児童の健全な育ちに向かって協力していくようにと思います。

また、公園の充実も話し合いたい議題のひとつです。

<金本委員>

校庭開放で鉄棒に興味をもち遊んでもらっているのがわかり、嬉しく思います。バランス感覚の遊びが危険！と言われますが、大人になっても体幹が大切だと言います。小学校から色んな遊びをして欲しいですね。

キッズスクエアでは、大学生ボランティアの方が増えてきて素晴らしいです。実践できる機会があり、より良く知ってもらえたら嬉しいですね。教科書では教えてもらえない授業です。キッズスクエアの卒業生が恩返しできる日がもうすぐですね。

<加藤委員>

今年度もコロナ禍で、子ども達が放課後や土曜日に校庭で遊ぶ機会は少なかったと思います。感染拡大に伴う外出自粛の影響でパソコンなどのゲームにのめり込む子どもが増えて、ゲーム依存症が拡大する懸念が高まっています。体を動かすことで睡眠の質も違う様です。潮見地区、特に南地域は公園も多く私は子ども達が野球・サッカーなどルールを守りつつ遊んでいる姿をよく見かけます。子ども達の声の聞こえていると嬉しく思います。まわりの大人達が今まで以上にあたたかい目を向けることで、子ども達の体を使って遊ぶということが増えるんじゃないかなと思います。

一日も早く、このコロナが終息する事を願うばかりです。

<伊東委員>

○キッズスクエアについて

・コロナ禍に入ってから、絶対的に参加人数が減っています。

今までは、絶対的に必要ではなくても居場所として参加していた子がいたのか、絶対的に必要（低学年で帰っても一人など）ではあるけど、感染が心配で参加しなくなったのか、その子たちは、一人で家で過ごしているのか、どうしてるのか、気になります。放課後どう過ごしているのかは、また別の課題になるのでしょうか。

<事務局回答>

キッズスクエアを居場所としていた子ども達についてご心配下さり、ありがとうございます。

伊東委員も質問文章でお書きくださっておられますように、キッズスクエアの児童がそれぞれ居場所をどの程度必要としているかについては、それぞれの児童・家庭によって異なるため判断が難しい面がございます。キッズスクエアに来られていない理由につきましても様々な要因が考えられ、伊東委員が述べておられることも大きな要因であると推察いたしております。

また他には、塾やお稽古事、公園なども含め、新たな居場所が見つかったというケースや、キッズスクエアが再開するのを楽しみにしていますという保護者・児童の方もおられますので、キッズスクエアが休止している期間のみ異なる居場所をそれぞれがつけられ、キッズスクエア再開後は参加をするというケースも多いように感じております。

また放課後をどう過ごしているのかについては、国県自治体などで様々な形で調査が行われております。

青少年育成課では放課後児童クラブとキッズスクエアという放課後の児童が利用する大きな事業を2つ行っており、芦屋市の中で学校を除き、もっとも放課後の児童について関りが深い部署ではございますが、登録や参加をして下さっている方のみでそれ以外の方については、動向を把握できていない現状です。

全ての子どもに十分とは言い切れないのかもしれませんが、本市では市内全8小学校の校内で待機児童を出さず、放課後児童クラブ事業を行い、また同様に市内全8小学校で地域の全ての児童を対象とした年間220日、多様なプログラムや地域の方に協働いただいて事業を実施しており、新たな施策を考えると状況とは異なり、現存の事業を時代や環境に応じて子ども達のために進めていくかに注力すべきものだと考えます。

十分なお答えとなっておらず申し訳ございません。

<伊東委員>

・体験プログラムの実施が減っていますね。コロナ禍で実施日自体が減ってしまっているのはわかります。

屋外だったら、もっとできるようになるなど、基準が変わらないとむずかしいのでしょうか。

家に一人でいる低学年の子が、参加したくなるプログラムは大事だと思います。

<事務局回答>

体験プログラムの実施も新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、大幅に縮小をしております。

キッズスクエアにつきましては、比較的感染の可能性が低い屋外も使用しておりますが、すべての事業を学校内で実施しており、学校の感染防止にも注視し、事業を行う必要がございます。例を挙げさせていただきますと、学校で異学年の交流を止めることで感染予防を徹底しようと努力されている時にキッズスクエアを行うことが適切かどうかなど、学校の全ての思いに完全に対応はできていない面もあるかと思いますが、学校に通う児童もキッズスクエアにくる児童も同じ児童ですので、両事業の主旨をしっかりと理解をした上で、児童や保護者様にも混乱されない形での運営を心がけています。

また体験プログラムの指導員として協力くださっておられる方々の安心や感染予防等もししっかりと行う必要もがございますし、世の中がこれだけ厳しく感染予防対策を行っている中、自身が子どもに感染をさせるようなことがあってはならないという思いを持ってくださっておられる方もおられ、キッズスクエアが体験プログラムを行うか、行わないかだけでは判断できない部分もございます。

またキッズスクエアの運営の限界として屋外屋内に問わず、どの児童がどのように遊んでいたか、誰とかがわっていたか、誰がマスクをしていたか、していなかったかなどの把握を十分に行うことが難しく、参加者の内、陽性者が出た場合の対応が困難を極めることも付け加えておく必要がございます。

すこしシンプルなお伝え方をしますと「児童は外で過ごすのは安全なので、外のみ活動をします、集まってください」と言って事業が行えるかといえ、それぞれの方の感染に関するお考えやお気持ち、環境、社会的状況などもあり、全てを十分にくみ取ることができず力不足な点もございますが、それぞれの立場の方のご協力を欠かすことはできません。

また屋外の場合、キッズスクエアにおきましても開設当初試みたことがございますが、雨が降ってきた場合の中止やキャンセルなどの連絡を一切なしで無事児童が自宅に帰ることができるかなど、課題もございます。雨のときのみ室内で待機するという方法もございますが、参加人数が多数の場合、感染拡大防止を行い待機することが困難な場合も生じます。

またプログラムを数多く実施することで児童を呼び込むことになり、密を生み出す原因ともなりうることもあり、実施について慎重にならざるを得ない状況です。

先日、キッズスクエアについて児童の半数近くが登録し、浸透している事業の為、コロナ禍で児童が離れてしまうことを懸念するという声を頂きました。今回のご意見も今後コロナ禍が継続する中で新たに一步を歩ませて頂く際の一案としてお預かりをさせて頂きたいと思います。

ありがとうございます。

<小西委員>

「資料1 校庭開放事業について」

昨年も意見が出ていましたが、せっかくの校庭開放なのに参加人数が少なくもったいないと感じます。

<事務局回答>

コロナの影響で校庭開放を中止にしている期間が長いので、参加人数が少なくなるのはやむを得ない部分もあると考えています。校庭開放事業の周知につきましては、引き続き、学期ごとに全生徒にチラシを配布するとともに学校でのポスター掲示、ホームページでの周知に努めてまいります。

<小西委員>

「資料2の⑥ボランティア、学生について」

精道キッズスクエアの子ども達は、プログラムの日をとても楽しみにしています。資料を見ると複数の学校から様々なボランティアが参加されておりますが、精道キッズスクエアでは毎月決まったパターンになっているような気がします。

今はコロナもあり、交通の便等、難しい面があるかもしれませんが、子ども達が色々な文化に触れられることが出来たら良いと思います。

<木下委員>

校庭開放事業について

①校庭開放参加者の連絡先等の名簿管理はできているのか気になりました。置きっぱなしとかではないと思いますがどうしているのでしょうか。

<事務局回答>

以前までは、参加者名簿に名前とクラスのみを記入する様式でしたが、新型コロナウイルス感染症の関係で連絡先も記入してもらうように変更しています。名簿の管理については、安全管理人が適切に管理をしています。

<木下委員>

校庭開放事業について

②感染防止対策を講じながら実施しているとは思いますが、検温以外に消毒などどのようなことに気を配りながら実施しているのでしょうか。

<事務局回答>

校庭開放利用時には、非接触型体温計により、検温を実施しています。また、参加者名簿の記入に利用する鉛筆の消毒等を行っています。

<木下委員>

キッズスクエアについて

①新型コロナウイルス感染症対策(ICTの活用)の一つとしてオンラインプログラムがあると思いますが、どんなプログラムが子ども達の人気となっていましたか。

<事務局回答>

オンラインでは、STEAMプログラムは人気がございました。

1つは、紙飛行機を遠くに飛ばすというプログラムで紙飛行機を作りながら浮力について学び、羽に折り目をつけることの意味を学びました。もう一つは、ZOOM上でスタジオの方が生活に身近な様々な科学実験を子どもと一緒に行う体験参加型のもので、子ども達も興味関心を持って取り組みました。

※STEAMプログラムとは

SCIENCE (科学), TECHNOLOGY (技術), ENGINEERING (工学), ART (芸術), MATHEMATICS (数学) を統合的に学習する意味です。

2つめは、海外とZOOMでつながらせていただきスイスの方とお話をして日本の文化やスイスの文化の違いなどを話しました。スイスの方が日本語で話をして下さり、コミュニケーションが気軽にでき、いろいろな生活の違いに子ども達は驚いておりました。

3つめは、SDGsとしてフランスの海洋探索船のスタッフの方と子ども達が海の不思議について学ぶというプログラムでアンケート中に「私は医者になりたいと思っていたが今日の話をきいて海洋探索船の船員になりたいと思った」とかなり真剣に書いてくださっていることには驚きました。

4つめは、パラリンピックのメダリストの方がオンライン上ではありましたが、走り方を教えてくださったもの。子ども達は義足の着脱なども見せて頂き、また自分の走る姿も見て指導をしてもらうなど普段できない経験をさせて頂きました。

キッズスクエアの基本は対面でのふれあいですが、コロナの経験で得たオンラインの可能性につきましても今後も放課後にしかできないオンライン活用について児童の体験が豊かになるよう進めてまいります。

<木下委員>

キッズスクエアについて

②感染防止対策としてどのようなことに気を配りながら実施しているのでしょうか。  
素朴な疑問です。よろしくお願いいたします。

<事務局回答>

キッズスクエアは令和2年の第1回緊急事態宣言明けに再開してから大きくは変わっておりません。

①キッズスクエアにコロナウイルスを持ち込まない、持ち出さないです。

具体的には参加時に手洗いまたは消毒を行う、退出時に手洗い消毒を行う。特に退出時の手洗い消毒につきましては、その後さまざまな施設などでも行うようになってきましたが、かなり初期段階から取り組みを行い継続しています。

②参加者・スタッフの体調不良はもとより、家族が体調不良の場合も参加はしない。

③換気や共同使用場所の消毒の徹底

④保護者の感染予防が完全ではないこと、密となった場合は帰宅できる児童は帰ってもらうことがあるという事前のお約束もお願いしております。

以上、参加児童が陽性となった場合の対応に限界があるため、放課後子供教室事業としては、かなり徹底した感染防止対策をおこなっております。

今後も感染症対策を徹底しながら実施に努めてまいります。

4 閉会